<エントリーシート> ※事務局記入欄 **No.：A - 3**	部門 平成 30 年第４回中堅教員研修	学校名・氏名 滋賀大学教育学部附属中学校　太田　聡
	活動名 カリキュラム・マネジメント 社会の変化に柔軟に対応する授業改善と職員研修(スクラップ&ビルドの軌跡)	

課題の設定：

団塊世代の教職員の退職や中堅職員の転任、若い世代の新規採用や異動が進む中、長年、学校現場で培われてきた暗黙知が伝達されにくくなっている課題がある。学校現場における問題解決のコツや経験は、表面的な知識の習得や表面的な理解によって解決できるものではない。一人ひとりの教職員自身が先輩教員から見よう・見まねで吸収し、日本の学校文化を支え継承してきた暗黙知の部分の共有も重要であるといえる。

しかし、今後の激動する社会を生き抜く生徒を育てようとする学校には、狭い視野に基づくノウハウの伝承だけでは不十分である。生徒をどう育てたいかを明確にした学校組織力の強化と目標の共有、つまり、校長を中心とした各教職員のリーダーシップの発揮、教職員・保護者・地域間のコミュニケーション力の向上、学校改善への課題共有が重要である。社会の変化に柔軟に対応する授業改善と職員研修の在り方に焦点を当てた。

方針・計画

総合学習 BIWAKO TIME の展開を軸として、カリキュラム・マネジメントを進める。学校教育目標とのつながり、各教科間・各学年間・各校種間等とのつながり等を意識した授業改善および、教科の枠を越えたカリキュラム・マネジメントに関する校内研究を実施する。研究成果を一般に広く公開する実践的な職員研修を通して、未解決課題や今後の社会の変化に柔軟に対応しようとする生徒の育成を、より効果的に促進できるであろう。

活動内容：

「探究的学習活動を通した，論理的･創造的な思考力の向上　－総合学習 BIWAKO TIME を幹に，カリキュラム・マネジメントによる学びを深める学習指導－」をテーマに校内研究を推進する。平成 29 年度に実施した学校アンケート・学校評議員会等を踏まえ、特に同一市内への研究成果の還元が、研究校として不十分な側面があるという課題が見られた。そこで本年度は、校長・副校長の命を受け、地域社会への本校の研究成果の還元を積極的に進めるとともに、地域の学校のリーダーとして今後活躍が期待される本校教職員の一人ひとりが、各教科の授業改善や本校のカリキュラム・マネジメントに主体的かつ実践的に関わる機会を設定する。

活動の成果：

年間 15 回の校内研究会を計画し、実施中である。とりわけ 9 月 1 日(土)に実施した研究協議会では、昨年度より進めていた、カリキュラム・マネジメントの成果を公開し、全国 18 都道府県から約 200 名の参会者の中、本校および今日の教育現場が有する諸課題や研究成果について議論した。さらに、今後の実施予定も含め６回の授業公開と校内研究会(研究協議会)の公開を通して、原則として全教職員が学校組織の各担当のリーダーおよびフォロワーとして活躍する機会(研修)を確保し、本校が提案する探究的学習活動の意義とカリキュラム・マネジメントとをつなぐ工夫について提案した。本校の全国学力・学習状況調査 B 問題の生徒の無解答率の低さが示すように、参会者からも「思考を働かせながら授業に臨む姿が見られた」という声が寄せられた。本校 35 年間の研究のあゆみと、現在・未来を共有するべく、全職員で実践事例を執筆し書籍化した。OB からも「今後とも、県下はもとより日本のリーダーとして頑張って欲しい」という励ましを受けた。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

・校内研究でカリキュラム・マネジメントの検討を行う際や各教科で授業改善を行う際、日常的に思考ツール等の活用を推進し、全校体制で情報の見方や考え方に関する指導を、教科横断的に実施した。
・研究授業・校内研究会等を広く公開し、全教職員が本校に課せられたミッションに対する共通の課題意識を持ち、学校組織のリーダーおよびフォロワーとして、活躍する機会を確保できるよう実践した。
・中堅教員研修での他校との交流の際に、自校の強み・弱みとともに学校目標の具現化を行う局面で課題意識を持つ学校の多さが明らかになった。学校のミッションやビジョンの共有化を図る際や、全職員の意識を高め、個人の責任や役割の明確化を進める際に、中堅教員として職務の整理が求められていることが明確になった。
・本校 35 年間の研究成果と、現在の校内研究の姿を振り返り、実践事例を全職員で執筆し、書籍化した。

写真１　本年度のカリキュラム検討の様子(昨年度末)
「研究主任を中心としたカリキュラムのスクラップ＆ビルド」「成果物を掲示して改善点を意識化」

写真２　第４回中堅教員研修「カリキュラム・マネジメント」・・・付箋を用いた SWOT 分析等による課題分析
「各校の実態から浮かび上がった課題分析成果物」「付箋を用いた分析結果の発表と本校課題の洗い出し」

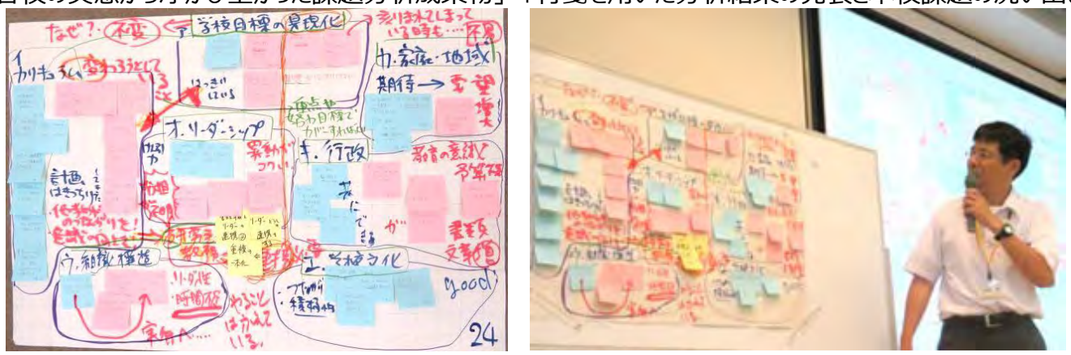

図１　全職員がカリキュラム・マネジメントを意識化

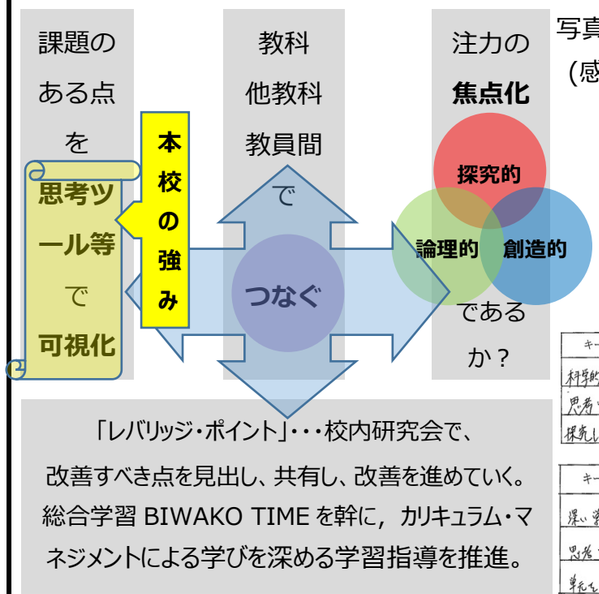

写真３　市研修の新規受入れ(感想を職員にフィードバック)

写真４　本校 35 年間の歩みと現在・未来をつなぐ書籍の出版(2018 年９月)